

塗る耐震で人類課題を解決

現在

世界中の建物は地震に脆弱



太古から組積造



地震の死因80%は組積造



2016年 イタリア
先進国でも地震で街崩壊



現代の高層ビルも組積造



組積造の居住率は世界人口の60%

太古から人類は石やレンガを積み上げた組積造で建物やインフラを造り続け、多少の改良はあったが数千年経った現代でもほぼ変わっていない。震度5以下の地震でも崩れる事もある脆弱な組積造に世界人口の60%が居住。住宅は多くの家族にとって最大の財産でありながら多発する小規模地震で崩壊し、脆弱な住宅が家族の命を奪っている(地震=被害ではない)。これは途上国だけの話でもなく先進国の課題でもある。またサプライチェーン強靱化の為にASEANに工場を有する日系企業の耐震補強の相談を受ける事が増えてきた。**日系企業といえどもASEANにある建物、工場の多くは組積造で耐震性が低い**事実を知らない担当者が多いのも、日本人には全く馴染みの無い組積造の抱える課題の一つである。

解決策

塗る耐震



人類は戦争や貧困を無くしたいと切望しながら数千年経っても未だ解決できていない。自然災害も同様だったが**当社は地震犠牲者をゼロにする**。これまで解決出来なかった理由はいくつもある。工学的知識無く建てられた建物をどうやって耐震補強するのか？高度な専門知識、施工技術、高価な材料は使い切れない等の制約を全て乗り越えて『塗る耐震』を開発した。耐震塗料の製造や組積造耐震解析には高度な技術が必要だが、ユーザーが使うのは実に簡単。新築、改修を問わず指定された塗布量を守ってローラーやコテで**耐震塗料を壁に塗るだけ**である。

未来

世界中の建物を耐震建物に



貧しい国が救えるなら世界を救える

コンクリートを使わない、耐震型組積造で都市をつくる

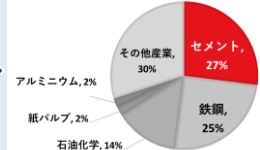


脱炭素社会への提案



安全な組積住宅(低金利住宅ローン適用、損害保険料減額で加入者急増)

出典: 国際エネルギー機関2018(IEA)



世界の産業別 CO₂ 排出量

『塗る耐震』を開発した後、日本の多くのVCからは途上国には売れないと言われた。私たちは先進国から途上国まで世界各国を歩いて市場調査を行い実業家、研究者、顧客など300名以上にインタビューし貧しい人々の中にも強い需要と予算を持った人々も存在する事を確認した。組積造が世界に広く普及した理由には廉価、入手容易性、高断熱性、高耐久性、加工性など建材として多数の長所が挙げられる。さらに製造過程で大量のCO₂排出を伴うセメントと異なり、組積造の中にはCO₂排出が少ない建材もある。脱炭素社会の**持続可能な都市として耐震型組積造都市SMCC (Seismic Masonry Construction City) を実現**する。